



2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年2月9日

上場会社名 株式会社ダスキン 上場取引所 東
 コード番号 4665 URL <https://www.duskin.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役 社長執行役員 (氏名) 大久保 裕行
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 経営企画部長 (氏名) 江村 敬一 TEL 06-6821-5071
 四半期報告書提出予定日 2023年2月13日 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第3四半期の連結業績(2022年4月1日～2022年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	128,180	4.0	9,020	△12.5	11,058	△8.9	7,594	△9.0
2022年3月期第3四半期	123,294	6.5	10,310	69.4	12,144	57.2	8,343	115.8

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 7,515百万円 (△4.2%) 2022年3月期第3四半期 7,843百万円 (32.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	153.71	153.64
2022年3月期第3四半期	169.03	168.94

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第3四半期	195,185	152,661	78.0
2022年3月期	198,055	151,026	76.1

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 152,270百万円 2022年3月期 150,661百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	-	30.00	-	53.00	83.00
2023年3月期	-	40.00	-	-	-
2023年3月期(予想)	-	-	-	41.00	81.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	170,000	4.2	7,800	△21.2	9,600	△21.4	6,600	△18.8	133.51

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名)、除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P.9「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期3Q	50,994,823株	2022年3月期	50,994,823株
② 期末自己株式数	2023年3月期3Q	1,952,674株	2022年3月期	1,559,747株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期3Q	49,409,554株	2022年3月期3Q	49,363,227株

※四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想等の将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(四半期連結損益計算書)	7
(第3四半期連結累計期間)	7
(四半期連結包括利益計算書)	8
(第3四半期連結累計期間)	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(会計方針の変更)	9
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(2022年4月1日～2022年12月31日)における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症(以下「コロナ」という。)拡大下の厳しい行動制限が緩和されるに従って正常化に向かい緩やかに持ち直す傾向にありました。しかしながらコロナ拡大状況が一進一退を繰り返す中で、経営環境は依然として厳しい状況が続きました。ウイズコロナの新たな段階への移行を目指す各種取り組みが続いていますが、ロシア・ウクライナ情勢の長期化、エネルギー価格や原材料価格の高騰、不安定な外国為替相場状況等、先行きの不透明感も依然として高い状況が続いております。

そのような環境の中、長期戦略「ONE DUSKIN」の最終第3フェーズ「中期経営方針2022」(2023年3月期～2025年3月期)のスタートを切った当社は、シンガポールでのミスタードーナツ事業展開を目的とする現地企業とのマスターフランチャイズ契約締結や生活者のより安心な生活に貢献するための株式会社クラシアンとの業務提携契約締結、「中期経営方針2022」において最重要の戦略的投資と位置付けているレンタル商品へのRFID(電子タグ)の取り付け開始等、社会価値の向上と企業としての持続的な成長、双方の実現を目指した取り組みを進めております。

一方では、原材料価格高騰、物流コストの上昇等に対して、フードグループ主力のミスタードーナツの一部商品及び訪販グループ主力のクリーンサービス事業(ダストコントロール商品のレンタルと販売)のレンタル品、一部の定期補充商品・販売商品の価格改定を実施しました。

当第3四半期連結累計期間は、全てのセグメントが増収となったことにより、連結売上高は前年同期から48億86百万円(4.0%)増加し1,281億80百万円となりました。利益面につきましては、増収に伴う売上総利益の増加があったものの、RFID(電子タグ)取り付け開始、燃料費上昇等に伴う原価上昇、訪販グループにおける営業活動の活性化や販売促進のための施策費用の増加等により、連結営業利益は前年同期から12億89百万円(12.5%)減少し90億20百万円、連結経常利益は前年同期から10億86百万円(8.9%)減少し110億58百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期から7億49百万円(9.0%)減少し75億94百万円となりました。

(単位：百万円)

	前第3四半期 (2022年3月期第3四半期)	当第3四半期 (2023年3月期第3四半期)	増 減	
			増 減	増減率 (%)
連結売上高	123,294	128,180	4,886	4.0
連結売上総利益	57,018	58,051	1,032	1.8
連結営業利益	10,310	9,020	△1,289	△12.5
連結経常利益	12,144	11,058	△1,086	△8.9
親会社株主に帰属する 四半期純利益	8,343	7,594	△749	△9.0

<セグメント毎の状況>

セグメント別売上高

(単位：百万円)

	前第3四半期 (2022年3月期第3四半期)	当第3四半期 (2023年3月期第3四半期)	増 減	
			増 減	増減率 (%)
訪販グループ	82,086	82,785	699	0.9
フードグループ	32,159	35,473	3,314	10.3
その他	11,408	12,307	899	7.9
小計	125,654	130,567	4,913	3.9
セグメント間取引消去	△2,359	△2,386	△26	—
連結売上高	123,294	128,180	4,886	4.0

(注)各セグメントの売上高は、セグメント間の内部売上高を含んでおります。

セグメント別営業利益

(単位：百万円)

	前第3四半期 (2022年3月期第3四半期)	当第3四半期 (2023年3月期第3四半期)	増 減	
			増 減	増減率 (%)
訪販グループ	9,985	7,812	△2,172	△21.8
フードグループ	3,231	4,539	1,307	40.5
その他	685	637	△48	△7.0
小計	13,902	12,990	△912	△6.6
セグメント間取引消去 及び全社費用	△3,592	△3,969	△377	—
連結営業利益	10,310	9,020	△1,289	△12.5

(注)各セグメントの営業利益は、セグメント間の取引を含んでおります。

①訪販グループ

訪販グループは、レントオール事業(日用品・イベント用品等のレンタル)、ケアサービス事業(役務提供サービス)、化粧品関連事業が減収となったものの、主力のクリーンサービス事業が増収となった他、ヘルスレント事業(介護用品・福祉用具のレンタルと販売)等その他の事業も増収となり、売上高は前年同期から6億99百万円(0.9%)増加し827億85百万円となりました。しかしながら原価、経費とも増加し、営業利益は前年同期から21億72百万円(21.8%)減少し78億12百万円となりました。

7月に価格改定を行った訪販グループ主力のクリーンサービス事業は、家庭向け、事業所向けとも売上は増加しました。

家庭向け商品につきましては、年末のお掃除セット「くらしキレイBOX」等の売上が減少したものの、リニューアルした「ロボットクリーナーSiRo」の売上が寄与した他、「おそうじベアシック3」(フロアモップ「La La」、ハンディモップ「shushu」)、「MuKuモップクリーナー」のセット商品の売上が増加し、主力商品であるモップ商品全体の売上高は増加しました。

事業所向け商品につきましては、空間清浄機「クリア空感」本体、加湿器本体等の売上が減少しましたが、高い衛生対策ニーズの下で、抗菌・抗ウイルス加工を施した高機能のマット売上が増加する等、主力商品であるマット商品全体の売上は増加しました。

ケアサービス事業につきましては、前期東京オリンピック関連の受注があった「サービスマスター」(プロのお掃除サービス)のお客売上高が減少したものの、「メリーメイド」(家事代行サービス)、「ターミニクス」(害虫獣の駆除と総合衛生管理)、「トータルグリーン」(緑と花のお手入れサービス)、「ホームリペア」(住まいのピンポイント補修)のお客売上は増加しました。

訪販グループのその他の事業につきましては、化粧品関連事業が減収となった他、レントオール事業が、コロナ以前の状況に戻りつつあるイベントの増加及び「イベント衛生サービス」の大口契約延長等があったものの、前年同期の東京オリンピック関連受注の反動減等で僅かに減収となりました。ヘルスレント事業、ユニフォーム関連事業、ライフケア事業(ご高齢者の暮らしのお手伝い)は増収となりました。

②フードグループ

フードグループは、主力事業であるミスタードーナツの全店合計お客様売上が増加し、原材料売上、ロイヤルティ売上が増加したこと等により、売上高は前年同期から33億14百万円(10.3%)増加し354億73百万円、営業利益は前年同期から13億7百万円(40.5%)増加し45億39百万円となりました。

ミスタードーナツは、前期3月に続いて11月に一部商品の価格改定を実施しましたが、その後も好調を維持しており、来店お客様数、お客様単価とも前年同期を上回り、1店当たりのお客様売上は前年同期を上回りました。更に新規出店等により稼働店舗数が増加したことも加わり、全店合計お客様売上も前年同期を上回りました。商品別に見ますと、当期も商品戦略の中心を成す“misdo meets”は、第1四半期の宇治茶専門店「祇園辻利」、第2四半期の株式会社BAKEが展開する3つのブランドとの共同開発商品とも好評で、お客様の支持を得ました。その他の商品では、毎秋恒例となった「さつまいもド」、「MISDO HALLOWEEN」、「ボン・デ・ショコラ」はいずれも好評を得て、それぞれ秋冬の季節定番商品として定着しつつあります。また、第3四半期に展開したポケットモンスターとのコラボレーション企画、年末恒例の福袋も好評で、売上増加に大きく寄与しました。

フードグループのその他の事業は、とんかつレストラン「かつアンドかつ」が増収となったものの、店舗数が減少したパイ専門店「パイフェイス」が減収となったこと及び2021年11月に連結子会社蜂屋乳業株式会社の全株式を譲渡してアイスクリーム事業から撤退したこと等により、全体では減収となりました。

③その他

国内連結子会社につきましては、株式会社ダスキンヘルスケア(病院施設のマネジメントサービス)、ダスキン共益株式会社(リース及び保険代理業)とも増収となりました。

海外連結子会社につきましては、楽清(上海)清潔用具租賃有限公司(中国におけるダストコントロール商品のレンタルと販売)は、コロナ再拡大に伴う上海のロックダウンの影響が大きく減収となりましたが、楽清香港有限公司(原材料及び資器材の調達)は、海外のミスタードーナツ売上が回復したことにより増収、Big Appleグループ(マレーシアを中心にドーナツ事業を展開)も増収となりました。更に円安も寄与し、全体の売上高は前年同期を上回りました。

以上の結果、その他の売上高は前年同期から8億99百万円(7.9%)増加し123億7百万円となりましたが、国内連結子会社の経費増等により、営業利益は前年同期から48百万円(7.0%)減少し6億37百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産残高は、1,951億85百万円となりました。前連結会計年度末(以下「前期末」という。)と比較して28億69百万円減少しております。その要因は、有価証券が149億9百万円、現金及び預金が16億86百万円、ソフトウェアが10億31百万円減少したことに対し、投資有価証券が91億5百万円、未収入金が31億86百万円、受取手形、売掛金及び契約資産が18億円増加したこと等であります。

負債残高は425億23百万円となり、前期末と比較して45億5百万円減少しております。その要因は、賞与引当金が17億66百万円、未払法人税等が15億58百万円、未払金が14億83百万円、流動負債その他が11億35百万円減少したことに対し、支払手形及び買掛金が12億54百万円増加したこと等であります。

純資産残高は1,526億61百万円となり、前期末と比較して16億35百万円増加しております。その要因は、利益剰余金が29億39百万円増加したことに対し、自己株式の取得等により、自己株式が11億94百万円増加(純資産は減少)したこと等であります。

(3) 連結業績予想等の将来予測情報に関する説明

2023年3月期(2022年4月1日～2023年3月31日)通期の業績予想(連結・個別)につきましては、2022年5月13日に公表した従来の子想を変更しておりません。

なお、修正が必要となった場合は、速やかに公表いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	23,360	21,673
受取手形、売掛金及び契約資産	12,266	14,066
リース債権及びリース投資資産	1,056	1,014
有価証券	30,604	15,695
商品及び製品	8,662	9,085
仕掛品	207	292
原材料及び貯蔵品	1,541	2,220
未収入金	4,994	8,180
その他	1,426	1,858
貸倒引当金	△17	△20
流動資産合計	84,102	74,068
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	44,362	44,853
減価償却累計額	△29,528	△30,332
建物及び構築物（純額）	14,834	14,520
機械装置及び運搬具	25,123	25,769
減価償却累計額	△17,855	△18,541
機械装置及び運搬具（純額）	7,268	7,228
土地	22,439	22,439
建設仮勘定	325	244
その他	15,399	15,668
減価償却累計額	△10,791	△11,259
その他（純額）	4,607	4,409
有形固定資産合計	49,474	48,842
無形固定資産		
のれん	270	270
ソフトウェア	6,481	5,450
その他	1,393	1,969
無形固定資産合計	8,146	7,690
投資その他の資産		
投資有価証券	46,176	55,282
退職給付に係る資産	2,348	2,328
繰延税金資産	1,601	908
差入保証金	5,340	5,298
その他	884	785
貸倒引当金	△19	△19
投資その他の資産合計	56,331	64,584
固定資産合計	113,952	121,117
資産合計	198,055	195,185

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,963	8,217
未払法人税等	2,359	801
賞与引当金	3,879	2,112
資産除去債務	14	7
未払金	9,136	7,652
レンタル品預り保証金	9,058	9,180
その他	6,594	5,458
流動負債合計	38,005	33,431
固定負債		
長期借入金	1,530	1,321
退職給付に係る負債	5,991	6,169
資産除去債務	611	599
長期預り保証金	873	983
長期未払金	10	9
繰延税金負債	5	7
その他	0	0
固定負債合計	9,023	9,092
負債合計	47,029	42,523
純資産の部		
株主資本		
資本金	11,352	11,352
資本剰余金	11,091	11,088
利益剰余金	122,401	125,340
自己株式	△4,219	△5,414
株主資本合計	140,625	142,367
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	7,195	7,557
繰延ヘッジ損益	△0	△0
為替換算調整勘定	34	386
退職給付に係る調整累計額	2,805	1,959
その他の包括利益累計額合計	10,035	9,902
新株予約権	59	49
非支配株主持分	305	342
純資産合計	151,026	152,661
負債純資産合計	198,055	195,185

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
売上高	123,294	128,180
売上原価	66,275	70,129
売上総利益	57,018	58,051
販売費及び一般管理費	46,708	49,030
営業利益	10,310	9,020
営業外収益		
受取利息	105	121
受取配当金	334	366
設備賃貸料	130	135
受取手数料	197	193
持分法による投資利益	388	555
助成金収入	354	95
その他	474	788
営業外収益合計	1,985	2,255
営業外費用		
支払利息	0	0
設備賃貸費用	82	84
その他	68	132
営業外費用合計	151	217
経常利益	12,144	11,058
特別利益		
固定資産売却益	1	3
その他	1	—
特別利益合計	2	3
特別損失		
固定資産売却損	0	1
固定資産廃棄損	42	30
減損損失	—	30
関係会社清算損失引当金繰入額	—	26
関係会社株式売却損	288	—
その他	11	—
特別損失合計	342	89
税金等調整前四半期純利益	11,804	10,971
法人税等	3,428	3,331
四半期純利益	8,375	7,640
非支配株主に帰属する四半期純利益	32	46
親会社株主に帰属する四半期純利益	8,343	7,594

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	8,375	7,640
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,048	374
為替換算調整勘定	87	242
退職給付に係る調整額	296	△847
持分法適用会社に対する持分相当額	132	105
その他の包括利益合計	△532	△124
四半期包括利益	7,843	7,515
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	7,809	7,461
非支配株主に係る四半期包括利益	34	54

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2022年11月8日開催の取締役会決議に基づき、自己株式536,600株の取得を行いました。この結果、「従業員持株会信託口」が保有する当社株式の処分等による増減も含めて、当第3四半期連結累計期間において自己株式が1,194百万円増加し、当第3四半期連結会計期間末において自己株式が5,414百万円となっております。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。この変更による四半期連結財務諸表への影響はありません。

(セグメント情報等)

セグメント情報

①前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

イ. 報告セグメント毎の売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位: 百万円)

	訪販 グループ	フード グループ	その他 (注1)	計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
売上高						
クリーンサービス事業	60,324	—	—	60,324	—	60,324
ケアサービス事業	10,603	—	—	10,603	—	10,603
ミスタードーナツ事業	—	29,957	—	29,957	—	29,957
その他	10,681	2,193	7,775	20,649	—	20,649
顧客との契約から生じる収益	81,608	32,150	7,775	121,534	—	121,534
その他の収益	—	—	1,760	1,760	—	1,760
外部顧客への売上高	81,608	32,150	9,535	123,294	—	123,294
セグメント間の内部売上高 又は振替高	477	8	1,872	2,359	△2,359	—
計	82,086	32,159	11,408	125,654	△2,359	123,294
セグメント利益又は損失(△)	9,985	3,231	685	13,902	△3,592	10,310

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、事務用機器及び車両のリース、保険代理業、病院のマネジメントサービス及び海外事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△3,592百万円には、セグメント間取引消去101百万円、各報告セグメントに配賦していない全社費用△3,694百万円が含まれております。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

ロ. 報告セグメント毎の固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

なお、のれんの当第3四半期連結累計期間の償却額及び当第3四半期連結会計期間末の残高は以下のとおりであります。

(単位: 百万円)

	訪販 グループ	フード グループ	その他	全社・消去	合計
当第3四半期連結累計期間償却額	104	10	7	—	121
当第3四半期連結会計期間末残高(注)	228	32	52	—	313

(注)当第3四半期連結会計期間末残高の主な内容は、当社及び連結子会社が複数の加盟店から事業譲受した際に発生したのれん残高213百万円(訪販グループ)、32百万円(フードグループ)、2017年2月に取得したBig Apple Worldwide Holdings Sdn. Bhd. ののれん残高52百万円(その他)であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

②当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

イ. 報告セグメント毎の売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	訪販 グループ	フード グループ	その他 (注1)	計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
売上高						
クリーンサービス事業	60,934	—	—	60,934	—	60,934
ケアサービス事業	10,342	—	—	10,342	—	10,342
ミスタードーナツ事業	—	34,129	—	34,129	—	34,129
その他	10,993	1,331	8,746	21,071	—	21,071
顧客との契約から生じる収益	82,270	35,461	8,746	126,478	—	126,478
その他の収益	—	—	1,702	1,702	—	1,702
外部顧客への売上高	82,270	35,461	10,448	128,180	—	128,180
セグメント間の内部売上高 又は振替高	515	12	1,858	2,386	△2,386	—
計	82,785	35,473	12,307	130,567	△2,386	128,180
セグメント利益又は損失(△)	7,812	4,539	637	12,990	△3,969	9,020

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、事務用機器及び車両のリース、保険代理業、病院のマネジメントサービス及び海外事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△3,969百万円には、セグメント間取引消去32百万円、各報告セグメントに配賦していない全社費用△4,002百万円が含まれております。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

ロ. 報告セグメント毎の固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

なお、のれんの当第3四半期連結累計期間の償却額及び当第3四半期連結会計期間末の残高は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	訪販 グループ	フード グループ	その他	全社・消去	合計
当第3四半期連結累計期間償却額	66	10	8	—	85
当第3四半期連結会計期間末残高(注)	202	18	49	—	270

(注)当第3四半期連結会計期間末残高の主な内容は、当社及び連結子会社が複数の加盟店から事業譲受した際に発生したのれん残高194百万円(訪販グループ)、18百万円(フードグループ)、2017年2月に取得したBig Apple Worldwide Holdings Sdn. Bhd. ののれん残高49百万円(その他)であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。